

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	遺伝性腫瘍専門医/臨床遺伝専門医育成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	・すでに内科、外科、産婦人科など指定の学会認定医・専門医を習得した医師						
修業年限（期間）	1～3年						
養成すべき人材像	<p>遺伝性腫瘍診療への需要は、拠点病院のみならず地域連携病院においても急増している。本コースでは、高度な専門知識を有するのみならず、認定遺伝カウンセラーや多職種メディカルスタッフと円滑に連携し、チーム医療を主導し得る医師を育成する。将来的には、阪神圏域における遺伝医療の均てん化に貢献し、次世代の指導的立場を担う「遺伝性腫瘍専門医」の輩出を目指すものである。</p>						
修了要件・履修方法	<p>〈修了要件〉            遺伝性腫瘍専門医制度の申請要件に準拠し、以下の臨床実習を修了すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝性腫瘍に関連する臨床現場において、指導医の指導のもと通算10症例以上の担当または陪席を行うこと。</li> </ul> <p>対象となる症例は、遺伝学的検査の実施例に限らず、未発症者に対するリスク評価や、家系情報の聴取を行った事例も含むものとする。            各症例について所定の「臨床実習レポート」を作成し、コース責任者の承認を得ること。</p>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝性腫瘍 臨床実地実習                （外来陪席、予診対応、家系図作成の実践）</li> <li>・ゲノム・キャンサーボード演習                （多職種カンファレンスへの参加、担当症例のプレゼンテーション、治療方針の討議）</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	遺伝性腫瘍専門医（日本遺伝性腫瘍学会認定）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	日本遺伝性腫瘍学会の専門医取得要件を念頭に置き、資格申請に不可欠な臨床経験を補完する。家系図作成から倫理的配慮の実践に至るまで、指導医のフィードバックを受けながら、専門医として自立するための臨床スキルを集中的に習得する。						
指導体制	受講生1～数名に対し1名のメンターとして遺伝性腫瘍専門医を配置し、症例ログ（経験記録）の添削、バリエーション評価のダブルチェック、専門医申請書類の指導を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	がん診療の地域の基幹病院における遺伝診療の責任者（または次期責任者）として、遺伝カウンセリング外来の運営や、がんゲノムプロファイリング検査後の「エキスパートパネル」における構成員を務める。						
受入開始時期	令和8年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	0	0	1	0	1	2
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	南大阪地区のがんゲノム連携病院施設数から遺伝性腫瘍専門医のニーズおよびがんプロで教育を担えるキャパシティを鑑みて設定した。						